

第40回

うつのみやこども賞だより

令和5年度 4回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『手で見えるぼくの世界は』

樫崎 茜／作 (くもん出版)



令和5年9月3日

読めは
愉快だ
宇都宮

宇都宮市立図書館

UTSUNOMIYA CITY LIBRARY

～読んだ本の感想よ～

- 目が見えないからと言って差別をしたり、暴力をするのはとてもひどいと思った。双葉は悪くないと思った。
- とつぜん目が見えなくなってしまうのは、とてもこわいだろうなと思った。
- たすくが、ふたばに会いに行くために白杖の練習をがんばっていて、いいと思った。つばきの葉を点字を打つものとしてつかっていたのがおもしろい。
- わたしも目が見えない人たちの助けになれるようになりたいと思える本だった。
- 佑や視覚支援学校の友だちは、目が見えなくても手でものを見ていることがすごいと思いました。佑と双葉が、いろいろ大変なことがあっても、のりこえていることに感動しました。
- たすくが先生といっしょに駅に行って、女の人やおじさんから嫌なことを言われていた時に、先生がたすくを地上に連れていってくれて、無事でよかったと思いました。

『金色の約束』

松本 聡美／作 (国土社)

- 最初、光輝と智彦は、おたがいに距離を取っていたけど、砂金採りを通してはげまし合い、また仲良くなっているのがすてきだなと思った。
- 2人はけんかしたはずなのに、すぐ仲なおりにして、さすが仲よしだと感じました。
- 砂金を1つしか見つけられなかったときに光輝が「もうだめ。そう思ったときから勝負だ」とあきらめないでねばったところが一番印象に残りました。
- 2人でそれぞれの知恵を働かせて難所を突破していたのが、かっこいいなと思いました。
- 智彦と光輝は仲が悪くなっていたけど、砂金採りやあずま屋のじいちゃんのおかげで協力したり、ほめたりして、仲が物語の最初よりよくなって良かったです。

『ひみつの犬』

岩瀬 成子／著 (岩崎書店)

- トミオがしあわせになれてよかったと思った。
- さいごの方で、いい人はやさしい。親切。だけど、その人の心がすべてよいものとは言えない。ということが、とても納得できたし、確かに。と思えました。
- 主人公の羽美の思いついたら頭から離れないというのは、自分にもそういうところがあり、気をつけなくてはと思った。
- トミオをばれないようにさん歩に連れて行くシーンやチラシの正体を暴いていくところが、ハラハラドキドキの展開でおもしろかった。
- 仲が良いとは言えなかった姉との最後の方のやり取りがとても良かった。

『星屑すぴりっと』

林 けんじろう／著 (講談社)

- イルキは病気になってしまった、いとこのせいちゃんのためにハジメと2人で京都に行くところがかっこよかった。
- 相手を助け、助けられと2人でのりこえていく姿がとてもよく、こんな友だちができたらいいなと思わせられた。こんな友だちになれるといいね！！と、友だちにすすめたい。
- ハジメが急に1人で京都に行けと言ったシーンがずっと頭に残っています。怖そうな人にどなられた時は自分もその世界にいるようでドキドキしました。
- 2人でせいちゃんの作った映画を探しに京都へ、は大変だったんだろうなと思います。でも、その映画を持ちかえることができてよかったなと思います。